



しもながや

令和4年5月31日 発行

横浜市立下永谷小学校

いろいろなみかたで

副校長 松本未紀

ここ数年5月に入った途端に連日、夏日を記録するような年が続いたからでしょうか。今年は5月に入って肌寒く感じる事が多い気がしていました。しかし、三寒四温の名の通り、平年並みに気持ちのよいさわやかな日が訪れ、春をゆっくり感じる事ができました。そのような中、子どもたちは、活動の規模や内容を広げながら過ごしています。

さて、先日、教室を回っていると、2年生が算数で2桁のひき算を学習していました。問題文から考え、式は「 $41 - 15$ 」となった様子。でもここからが難問で、う〜んと考え込んでいる子の横にちょっとお邪魔しました。「ちょっとわかんない。」「じゃちょっと変えて $40 - 10$ だったらどうなるの。」「それは30。」「どうして30になると思ったの。」「4から1引いたから。これは簡単。」その子の目がキラッと輝きます。40を4(10が4つ)と10のまとまりとしてみる事ができています。「でもこれ・・・引けないなあ。 $1 - 5$ ってどうするんだろう。」とってもいい気づきです。1年生の時にはもっと少ない数で学習をしていたのですが、数が大きくなるとちょっと不安になったのでしょうか。その後、図に表して 41 を○に表したり、位ごとに分けて表したりしながら、 $40 - 10 = 30 \rightarrow 30 - 5 = 25 \rightarrow 25$ に 41 の1を足して26の見事に答えが出ました。「これでいい。わかった。」と前よりキラキラの目で輝く笑顔を見せてくれました。この後、筆算でも答えが出せることを他の友達の意見から学んでいました。

最初から筆算にして、方法を覚えて、正解にたどり着くこともできます。しかし、電卓やパソコンが身近にある現代だからこそ、あえて考え方を大切にしたいと考えています。未来をつくる子どもたちに身に付けて欲しいのは、なぜどうしてそうなるのかをじっくり思考し、その思考を図にしたり数にしたり言葉にすることで表現し、本当にそれでいいのか判断する力です。式の答えは一つだけけれど、そこにたどり着くにはいろいろな考えがあっというんだよ。わからないことや困った時こそ、いろいろな見方で考えることができるといいな。そんなことを思いながら教室を後にしました。

本校は今年度も「算数科」の授業で「自分の考えを進んで表現し、学び合う楽しさを実感できる子どもの育成」を目指して授業研究等を重ねています。様々な見方・考え方を数学的な活動を通して育てていきます。また、相手の考えに共感したり、互いに高め合ったりする場面を捉え、主体的に取り組む態度を育成していきます。

最後に、先日 図書日よりで、今年の読書感想文の低学年の課題図書の一冊に「すうがくで せかいをみるの」という本が紹介されていました。家族それぞれに好きなものあって、彼女が好きなのはすうがく。誰にだって好きなものあって、それぞれのやり方で世界を見ている。人それぞれみんな、好きが違うから、いろいろな見方があっというんだよって教えてもらいました。子どもたちの好きからすてきな世界が広がりますように。

